

第2回岩倉市子ども行動計画策定委員会 議事録

日 時 平成24年8月7日(火)午後2時から
場 所 岩倉市役所 第3委員会室
出 席 者 委員9名、事務局6名

議 事 (1)子どもの居場所・子どもの参画について
(2)現状・課題について
(3)子どもの参画(ワークショップ)について

配布資料 第2回岩倉市子ども行動計画策定委員会次第
資料1 第1回岩倉市子ども行動計画策定委員会議事録
資料2 子ども居場所・子どもの参画についての資料
資料3 子ども行動計画策定に向けた課題について
資料4-1 子ども参画(ワークショップ案)について
資料4-2 「高校生による高校生のための場づくり(仮称)I-Spot」第1回開催報告
参考資料 岩倉市子ども行動計画策定に関わる現状について(追加資料)

1 はじめに(開会)

2 議事

(1)子どもの居場所・子どもの参画について

小松委員長より、子どもの居場所・子どもの参画について、全国の事例を交えてレクチャーいただいた。

<全国の事例で共通する特徴>

- ・ターゲットとして「子ども」があるとしても必ずしも「子ども」に特化しておらず、広く一般の市民を受け入れる場所づくりを目指している。
- ・できるだけ自主的な運営をできるように、行政も工夫した取り組みをしている。
- ・利用者や積極的に運営に関わろうとしている人々がそれなりの知識を持って関わっている。



<全国の事例について>

- ・ゆう杉並(東京都杉並区)では、そこで活動するメンバー制のオフィシャルチームをつくり、利用者が企画・運営に取り組んでいる。
- ・北上市さくらホール(岩手県北上市)は、2つのホール間に共有スペースがあり、ここでやってもいいこと(休憩、飲食、勉強等)がピクトグラムで表示されている。
- ・日進市立図書館(愛知県日進市)は、様々なタイプのベンチがあり各自が好きな場所を選んで過ごせる。また図書館としては珍しく外で本が読めるスペースもある。
- ・ぬまづ健康福祉プラザ(静岡県沼津市)は、まちのメイン通りにあり複数校の通学路であることから中高生が学校帰りに立ち寄りやすい。また、グループごとに利用で

きる専用ロッカーがあり、道具などを常時施設に置いておくことができる。

- ・佐倉市ヤングプラザ(千葉県佐倉市)は、統廃合によって空いた銀行の建物を中高生の居場所として転用した事例。市教育委員会の若手職員による構想。利用者は中高生が多いが指定はしていない。

意見交換の要約

- ・高齢者と子どもが同じ場所で同じメニューに取り組むことは難しいかもしれないが、例えばテーブル単位で各自のスペースが確保できれば、世代が違って1つの場所を共有することは可能だと思う。
- ・バンド演奏やダンスは普段できる場所が少ないことから、学生が希望する施設として演奏やダンスのスタジオが挙がるのではないかといい。身体を動かせる場所もあるといい。
- ・バンクーバーにあるユースセンターでは、労働相談に乗ったり、ホームレスの若者を支援したりと、多様な子どもに対する目配りができていた。学校外にそういった支援を受けられる場があるといいのでは。
- ・家庭に恵まれていない子どもなど問題を抱えている子どもが満足感を得られる場があるといい。
- ・岩倉でできるところから始めていけるといい。ダンスや音楽など自己実現の場も公共的なところでできるといい。
- ・第二児童館はまちなかにあり子どもの利用が多いが、建物が古く建て替えてもらえるといい。もしくは事例にあったような機能を入れてもらえるといい。
- ・市民プラザや生涯学習センターも普段意外と人が少ない。あまり使われていない既存施設の活用をこの委員会で考えていけるとよいのでは。
- ・市民プラザに小学生が溜まっていることがあるが、そういった時間に余裕のある子どもたちが自分たちで何かに取り組んだり、大人と関わることができるといい。
- ・一括りにしてしまえば皆「子ども」だが、様々なステージがあり、年齢によって施設利用に制約があったり、行き場所がない子どももいると思う。

(2)現状・課題について

子どもの参画について

- ・参画していく仕組みが整っていないと見せかけの参画で終わってしまう。子どもが秘密基地が欲しいというならば、具体的にはその中身がどんなものなのかを一緒に考え、大人と子どもの意識がずれたまま進まないように気をつけなければいけない。
- ・関連団体の連携による子どもの参画といった場合、どんな関連団体がどんな活動をしていてどんな展望をもっているのかを把握する必要がある。
- ・昨年、「にこにこシティいわくら」の実行委員会に初めて参加した際は子どもたちもなかなかまとまらずテーマも高度な内容でどうなるかと思ったが、当日は子どもたちも楽しんでやれており大成功だった。子どもたちは柔軟性を持っていて、ある程度任せても自分たちでやっていける。今後も継続していき、経験のある上級生が下の子へ教えていけるようになるといい。
- ・早めに職業意識をつけてあげられるといい。休耕田を活用して作物だけでなくカブトムシを育てたり、子ども同士のぶつぶつ交換マーケットなどもできるのではないかといい。北名古屋市では小学校で学童保育をやっている。岩倉でも同じようにすれば児童館が余り、別の活用が考えられる。
- ・ミニミュンヘンは、準備段階はある程度大人がお膳立てしているが、実際に始まったら大人は手を引いて見守るだけ。当日は、いかに大人を介入させないかが重要。
- ・参画の目標・目的をどこにもっていくか整理が必要。市としての考えを提示いただきながら、今後議論していきたいと思う。

(3)子どもの参画(ワークショップ)について

- ・ただのイベントで終わってしまうともったいない。特に児童館企画は子どもたちの参加がどう社会参画につながっていくか見通しがあるといい。
- ・児童館企画は、導入部はある程度大人がやるにしても、その後は子どもたちに任せられるといい。進め方自体を実験的にやってみてはどうか。子どもと一緒に遊べる楽しい大人がいるといい。
- ・高校生企画は数年継続して取り組んでみてはどうか。
- ・委員会とリンクする企画としてさらに内容を詰めていただけるといい。

3 その他

- ・第3回は、9月4日(火)の午後2時から開催する。